



RUNNER



目次

活動の現場 …2

スキルアップ勉強会 …7

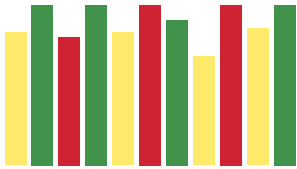
2019年冬の羽根標本展示は「可愛い」がテーマ …8

<野生動物痕跡調査団> ミッションその⑥ 森に住む穴掘り名人とは!? …10

～On your side～

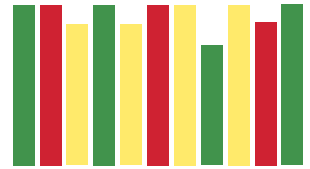
動物たちと環境のためにこれからも皆さんと一緒に …12

インフォメーション …14



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



薪束づくり報告&巣箱作成の報告

2019年8月23日(金)、私たち痕跡調査班は今年から始める予定の巣箱作りの材料となる木材を調達するために厚木森林組合で薪束作りを行いました。今回は、薪束作り作業やるかわりに巣箱を作るために必要な木材をもらえるように、センターの救護ボランティアをされていて痕跡調査でもお世話になっているKさんが厚木森林組合に話をしてくださいました。いつもありがとうございます。

さて、森林組合の方たちに薪束の作り方のレクチャーを受けて、さっそく作業を開始しました。今日のノルマは50束ですが、Kさん以外は全員が薪束作り初心者ばかり！なかなか作業ははかどりません。束ねた薪が抜けないようにギュウギュウに詰め込まないといけないのですが、薪を木槌で打ち込むと別の場所がゆるんでしまったり、きれいな丸い薪束にならなかったりとうまいこといきません。それでもなんとか午前10時前からスタートした作業はお昼には終了して厚木森林組合を後にしました。厚木森林組合の皆さん、Kさん、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

さあ、材料は手に入りました。今度は巣箱を作成しないと。今回、厚木森林組合の皆さんのご好意により非常にたくさんの木材をいただきました。皆さん、一緒に巣箱を作りませんか？

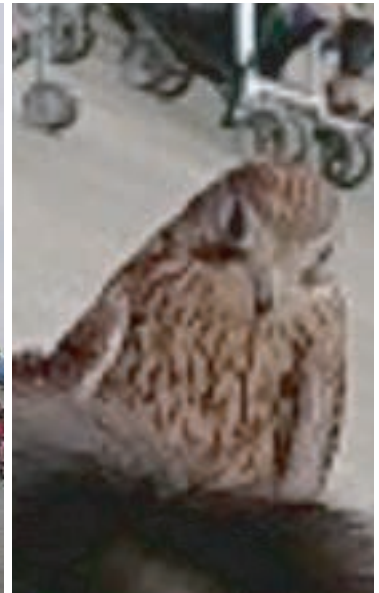
遠藤順一



動物フェスティバルよこすか2019に参加して！の報告

「野生動物救護の会」には本年度、入会しました。私は動物フェスティバルには、初めての参加で、「野生動物救護の会」の一員として、何かお手伝い出来ないかなあと思い参加しました。「野生動物救護の会」では、～人との共存の中で傷つく野生動物達～をテーマに救護活動の実態をパネル展示で紹介しました。エデュケーションボードで参加したチョウゲンボウは大人気と呼び込み役となり、たくさんの方が私達のブースに立ち寄って下さいました。立ち寄って下さった方にスタッフはパネルの説明をし、私もその説明を聴き、覚え、私も立ち寄って下さった方にパネルの説明をおこないました。みなさんパネルに興味・関心を持ち、熱心に説明に耳を傾けて下さいました。野生動物救護の活動を多くの方に知って頂いたと思います。何人の方からは活動頑張ってくださいと声をかけられました。私にとって勉強になった1日となりました。本日の一番の功労者は1日中、手の上でおとなしくじっとしていたチョウゲンボウです。ご苦労様でした。

小野茂生

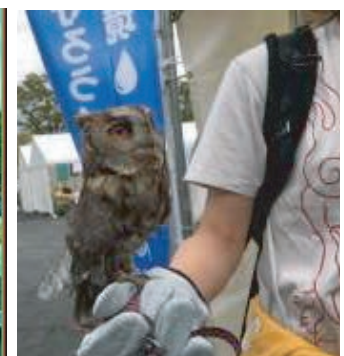


厚木環境フェスティバルの報告

10月20日(日)、2年に1度の厚木環境フェスティバルが中央公園で開催されました。野生動物救護の会は、このフェスティバルに参加をし野生動物救護についての普及啓発活動を行いました。会のパンフレットや救護の現状を伝えるチラシやパネルを展示して紹介しました。またエデュケーションボードとしてチョウゲンボウとオオコノハズクにも参加してもらいました。生きた猛禽類にたくさんの方が興味を示され足を止めて私たちの話を聞いてくださいました。また展示のパネルを見て質問されたり、自分の体験を話されたりする方もいました。さらに募金箱に寄付金を入れてくださる方もたくさんおられました。

今回の活動で野生動物救護の現状を市民の方々に広く普及啓発できたものと思います。

佐藤幸太郎



カイボリの報告

10月20日に丹沢大山ボランティアネットワーク主催の池のカイボリの行事が行われました。スタッフも入れて総勢31名が集まりました。この作業は、センターの谷戸の池にいつとはなく放たれてしまった外来種駆除が目的です。まず初めに簡単な作業の説明の後、各々で長靴や胴長を着て池の周

りに集合です。前の日から水が抜いてあった池へ並んで入り、それぞれ、網を持って横に一直線になって、池の奥へ進みました。池の中ほどから歓声がり始めました。大人の人たちがなんだか楽しそうに網で魚をすくいはじめました。大きな鯉がいて何人かで追いかけてようやく網ですくいあげていました。生け捕った魚などを岸に上がりそれぞれの入れものに種類別に入れてはまた池の中に入って奮闘していました。70センチ以上もある鯉が2匹もとれ、何度も入れ物から飛びだそうとしていました。最後に外来種と在来種の仕分けをして、外来種のブルーギルやザリガニは、気の毒ですが、センターの傷病動物のお土産としました。もちろん外から持ち込まれた鯉もです。在来種の主なものはモツゴ206匹、ヨシノボリ37匹、ヤゴ、ヌカエビ、メダカ、ホトケドジョウそれと大きなモクズガニが1匹入っていました。時間が来て、池から上がりそれぞれが長靴や胴長を洗い楽しい一日？が終わりました。でも、毎年やっているのになぜかザリガニなどはかなりの量が捕獲されます。根絶はなかなか難しいようですね。来年もこの行事は行われるようです。

安井啓子



「はだの第40回市民の日」野生動物救護の会ブースにての報告

秦野市では、毎年11月3日の文化の日に「はだの市民の日」と題したイベントを秦野市カルチャーパークにて開催しています。今年は、『お宝いっぱい 夢いっぱい』をテーマに、神奈川県内で活動している約250団体が、歌やダンスなどのパフォーマンスをはじめ、飲食、手作り雑貨、体験コーナーなどのブースを構え会場を盛り上げました。この日は天気予報では曇・雨でしたが、実際には晴・曇で天気に恵まれ、会場は多くの家族連れでにぎわいました。

「野生動物救護の会」のブースにも、多くの方が立ち寄ってくださいました。用意した「野生動物救護の会」のパンフレットもたくさんの方に手渡すことが出来ました。「野生動物救護の会」のブースでは、『街で共に生きる野生動物たち』～傷つく彼らを守る～をテーマに、なぜ野生動物が傷ついてしまったのか、その主な原因には、ガラスへの衝突、交通事故、釣糸・釣針、伝染病・寄生中症、わな、誤認保護、マイクロプラスチックなどがあることをパネル展示で紹介しました。パネルを見ている方には、なぜ野生動物が傷ついてしまったか、その原因には私たち人間の生活との関わりがあることを

スタッフは説明したので、野生動物を守るには私たちはどんなことに気をつけたらようか、考える機会になったかと思います。

エディケーションボードとして参加したチョウゲンボウとオオコノハズクは小さくて可愛いと大人気でしたが、ケガで自然に戻れない実物の鳥の姿は、見る人の心に強く訴えるものがあったと思います。この自然に戻れない鳥を見ている方には「野生動物救護の会」の活動についてスタッフは説明しました。ケガや病気で傷ついた理由で野生動物を保護した県民の方から自然環境保全センターに搬入された野生動物を「野生動物救護の会」では、救護し、自然に帰すボランティア活動と、自然に帰すことができない（自然で生きていけない）場合は、死ぬまで飼育（終生飼養）するボランティア活動をしていることを説明しました。何人かの方からは活動頑張ってくださいと言われました。私たちの活動にご理解して頂き多くの方が野生動物救護のための支援募金をしてくださいました。募金された方には「野生動物救護の会」オリジナルの羽根しおり or 野生動物缶バッジを持ち帰ってもらいました。募金していただいた皆様、どうもありがとうございました。

この日は準備から、片付けまでと長丁場でしたが、参加されたスタッフの皆様お疲れ様でした。参加して大変さ、楽しさ、喜びを感じることができました。

小野茂生



動物フェスティバルの報告

11月24日日曜日、寒川中央公園にて、寒川、茅ヶ崎動物フェスティバルが開催され、救護の会もブースを出展しました。

広い芝生の広場を囲むように舗装路があり、その道に沿ってテントが並んでました。背面に広がる芝生広場は、休日には沢山の人で賑わうとのことから、正面の舗装路側は、海ごみをメインにパネルを、ブース裏側には、バードストライクのパネルを並べ、表裏、両方向からパネルを見ることができる展示を試みました。動物フェスティバルだけあって、動物に興味のある方が多いのか、朝から機嫌のよ

かったオオコノハズクのコノハに、チョウゲンボウのステラは今日のイベントでも大人気で人だかりを作ります。話を聞くだけではなく、実際に保護経験がある方や、巣から落ちた雛の対処方法、傷病動物の保護後の連絡場所がわからなかった、など、野生動物を身近に感じ、とても興味をお持ちの方が多かったように感じました。パネルの両面作戦？が頂を奏したのか、ちらし配りが上手だったのか、イベント終了前にちらしは無くなりましたが、その後も人は途切れませんでした。

動物たちの傷つく原因などが両面印刷されたちらしは、たくさんの子供達にも配りました。家に持ち帰りご家族と一緒に見て考えてもらえることを願いながら、今年最後のイベントを終えました。

森 紀美子



スキルアップ勉強会

9月から始めた「スキルアップ勉強会」、月一のペースで開催しています。名称から毎回題材を決めて講師がいて勉強していくみたいなイメージをお持ちの方も多いと思いますが、そうではないのですよ。まず、参加者全員が、講師であり、生徒でもあるんです。そして、各々疑問に思う事、知りたい事、もっと知りたい事、こうしたい、ああしたいって事を出し合い話し合っていきます。経験者の方の話を参考にして解決することもあるし、逆に、その場では解決しない、結論が出ない事も多々あります。例えば、～救護動物との向き合い方。野生動物を保護することは本当に動物のためなのか？～というテーマでは、農業被害について考え、イベントなどで農家の方達と、どう向き合ったら良いか考え、また、～センターでのボランティア活動において、純粋に野生動物を助けるという活動ができていないか？～には否定的な見解が多かったため、今後センターとの話し合いも必要となりました。他には、夜間、センター内に猫が侵入し、ケージに飛びつき保護個体を脅かす事態が起きているようなので、その対策として、ケージをシャッターで覆う等の意見も出ましたが、建築物であること、費用の問題などで見送られ、次に猫が近づくとセンサーでスプリンクラーが作動し水を噴射する道具を検討したけど、冬のセンターは水も氷ることで却下、同じような構造でガス（人畜無害）を噴射する道具を試したところ、侵入したタヌキが逃げたことが確認されました。そして今、FC7でリハビリ中の個体がポールにぶつかり怪我をしたことを受け、ポールを緩衝材で覆う案を検討し



ています。このように、具体的な事から概念的な事まで話し合い、考えて、救護活動に結びつけていこうとしているのです。三人寄れば何とやらって言いますよね。一人が、ふと思ったことが広がりを持ち、具体性を持ち身に付いていく、そして野生動物救護に繋がっていく、そうなるの良いなと思うのです。

2019年冬の羽根標本展示は「可愛い」がテーマ

遠藤 順一

10月から12月の羽根標本展示は、可愛い小鳥の羽根を集めました。「可愛い」というキーワードは主観的な選択基準ですが、羽根標本チームのメンバーが相談して好きなものを選びました。展示することになった鳥の羽根標本を確認すると、傷んでいるものやちょっと作り方が雑なものがあったり（作ってくれた方、ごめんなさいね）、羽根の並べ方も標本を作る人によってまちまちで統一感がありませんでした。

羽根標本チームの活動は随分と長く続いていて、その間にメンバーも入れかわったり、羽根標本の作り方も変化してきました。その時代時代のメンバーが、いろいろ工夫や技術をこらして制作してくれた羽根標本ですが、思いきって作り直しを行いました。今までに製作した羽根標本は、70種を超えていましたが、デザインを統一するため一人のメンバーに全てお任せしました。本当に大変だったと思いますが、おかげで標本が美しく生まれ変わりました。12月末まで別館入口に展示していますので、センターにお越しの際には是非、ご覧ください。



上写真図：展示中の羽根標本
ぜひ見てね！



テーブルには、羽根標本と一緒に小鳥の巣箱を展示しています。今年、厚木市森林組合さんからいただいた木材を使って、救護ボランティアの方たちと作った巣箱です。作った巣箱の一部は、来年の繁殖期に野鳥たちが使えるように、すでに七沢の森の中に設置しました。私たちが作った巣箱を使って野鳥が繁殖してくれたらうれしいのですが、すこし気がかりなことがあります。



いつだったか日付けを忘れてしまいましたが、スマホでネットニュースの見出しに目を通していたときに、「都会のハトの足指切断、人間の毛髪が原因の可能性 仏研究*1」という記事を発見しました。フランスのパリの都心部には、趾（あしゆび）を失っているハト、おそらくドバト（*Columba livia*）だと思えますが、多数生息しており、その原因は衣類などの糸くずや人の毛髪がハトの趾に絡んだことによる壊死である、という調査結果を知らせる記事でした。



上写真図
右のハトは第指と第3指が欠落している（論文より引用*2）。
左のハトは、正常である。



野鳥の巣材には、様々なものが使われています。イネ科の植物やコケ類、鳥の羽毛や哺乳類の体毛など自然の素材と共に、スズランテープのような人間の活動によって作られた人工物を使用している種類もいるようです。そのような巣材がヒナの趾に絡まってしまうかと心配になります。パリの趾を失ったハトは、巣立ち直後の若鳥よりも成鳥のほうが多かったようですが、ヒナの中から絡みついでいて成長とともにひどく締まってしまった可能性もあると思いました。

上写真図
秦野市立図書館で撮影したドバト。

この記事を読んで私のように気になった方がいたら、是非、手を挙げてください。巣箱や材料は提供しますので、頑張って調査していただければ人間の活動による野鳥への影響について、新たな一面を知ることができるかもしれません。

*1 「都会のハトの足指切断、人間の毛髪が原因の可能性 仏研究」
<https://www.afpbb.com/articles/-/3254684>

*2 F. Jiguet, et al. Urban pigeons losing toes due to human activities. *Biological Conservation* 240 (2019).
<https://doi.org/10.1016/j.biocon.2019.108241>



<野生動物痕跡調査団>

ミッションその⑥ 森に住む穴掘り名人とは!?

皆さんは野生動物たちが普段どんな場所でどんな生活をしているかご存知でしょうか？NPO 法人野生動物救護の会野生動物痕跡調査チーム BeasTrace(以下 BeasTrace) では神奈川県立自然環境保全センター内にある野外施設に生息する野生動物の種類や生態を解明しようと活動しています。

こんにちは、雪が降り森の中に足跡が溢れることを今から待ち望んでいる調査員の小林です！
今年度はまだ鳥インフルエンザの報告がなくこのまま平和に春になるといいですね…。
さて、今回のミッションですが冬は穴の中で過ごし、春になるとビルビル歌いながら穴から出でくるあの動物について探っていきますよ！

これから冬本番ですが、冬といえば『冬眠』ですね！ですよね！？

皆さんは冬眠をする野生動物と聞かれたら何を一番に想像しますか？ 前回ミッション⑤で紹介した『クマ』と想像する方が多いのではないのでしょうか？しかし、クマはクマでももっと身近なクマさんも冬眠？をするんです♪ 一体何クマなのか、眠ってしまう前にカメラのデータを確認してみましょう。

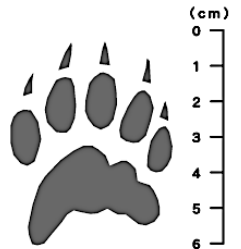


仁王立ちとはまさにこのことですね…後ろ姿はタヌキにも似ています。

<特徴その①>

体長約 50~70cm, タヌキに比べ耳は小さい
20cm ほどの尻尾に模様はなく
太くて立派な短足の持ち主
特に前足には 5 本の長くて鋭い爪がある

<足跡>



尻尾もふさふさでタヌキに似ていますが、タヌキは少し黒っぽい模様があります。足跡もタヌキは 4 本指ですから見た目や痕跡の特徴に大きな違いがあるようです。顔はどうでしょう？

(写真右下) ち…近い、そうこのクマさんは好奇心旺盛でカメラも興味津々で探索してきます。

<特徴その②>

目のまわりの縦に伸びる黒い模様がある
ヒゲは白色で大きな鼻が特徴的



この個体は顔に怪我をしているようで、模様に見えますが一部は傷です。

実はこのクマさん、好奇心の代償か一部毛が抜けてしまっている個体や怪我している個体が何頭か確認されています。野外施設では 2017 年から片目を怪我している個体が現在も生息しています。

なんとも可愛らしいこのでっぷりした体と、クリクリの目をしたこのクマさんの正体。

皆さんもうわかりましたよね…？

ニホンアナグマ

学名 *Meles anakuma* 英名 Japanese badger

食肉目イタチ科アナグマ属に分類される

名前の通り地下に長いトンネルを掘って生活しています。

雑食性で体重4～12kgにもなる

ニホンアナグマ



冬眠？をするのはクマはクマでも『アナグマ』だったんです！（2018年8月21日 19:08 撮影）

秋に皮下脂肪を蓄えて11月頃に巣穴で冬ごもりに入るといわれています。右上の8月の写真と左下の



10月の写真を比較してみると、冬に近づいた10月には同じ動物とは思えないほど身体が大きくなっています。ミミズや昆虫、秋に落下したドングリや果実を食べて冬ごもりに備えます。

今回ずっと冬眠？や冬ごもりと書いていたのはアナグマの冬眠はクマや他の冬眠する動物とは違うのではないかとされているからです。しかしクマと同じように冬の間、ほとんどの個体が活動を停止することは確かです。神奈川県自然環境保全センターの野外施設

(2018年10月24日 01:37 撮影)

では昨年度は11月23日を最後にカメラには映らなくなり、翌年の4月12日から再びカメラに映るようになりました。冬ごもりは気温と関係しています。年間を通して暖かい地域では冬ごもりをせずに活動を続ける個体もいるようですが、保全センターに生息しているアナグマは約4ヶ月の活動停止期間があるのではないかと調査によって予想されました。

もう1つクマと似ている身体のしくみがあります。それが『着床遅延』という現象です。妊娠期間は約2ヶ月間ですが、交尾するのは冬ごもり後活動が活発になる6月頃といわれています。妊娠期間から考えると8月には出産してしまいますよね？そうならないようにクマやアナグマは交尾後、受精卵が子宮内で待機し、条件が整った時期に着床して妊娠期間に入るという繁殖様式をとっているんです。

まだまだ謎の多いアナグマは私たちの身近な場所に生息しています。繁殖期になると警戒心が薄れるため、追いかけてこする姿を見せてくれるかも知れません。ぜひアナグマが目覚める頃に野外施設に来てアナグマの痕跡や姿を探してみたいはいかがでしょうか？

※ **非公開エリアは立ち入り禁止です。** 痕跡調査チームは特別な許可の下非公開エリアで調査を行なっています。

ルールを守って楽しく野外施設を散策しましょう！

- ・参考文献 小宮輝之(2002)『フィールドベスト図鑑 vol.12 日本の哺乳類』株式会社学習研究社
- 今泉忠明(2014)『アニマルトラック&バードトラックハンドブック』自由国民社



BeasTrace NEWS <新プロジェクト 巣箱計画スタート！>

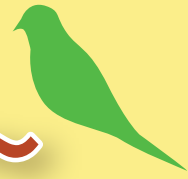
BeasTraceでは11月2日に大型巣箱の設置を行いました。以前から調査を行っていた山には野生動物が利用できる樹洞が確認できなかったため、繁殖場所・休息場所となる巣箱の設置に至りました。また複数の形の巣箱を作成し、どの形状の巣箱の利用があるのか等を検討していこうと思っております。果たして野生動物による利用はあるのか…今後の情報にご期待ください！



今回使用した写真は白黒で動物や足跡がわかりにくいと思います。野生動物救護の会公式ホームページでは見やすいカラー写真で掲載されています。ぜひそちらもご覧ください。次回もお楽しみに!!



～ On your side ～



動物たちと環境のために これからもみなさんと一緒に



ボランティア歴 17 年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
ら日々思うことを文章にしてみました。

皆さんこんにちは。このランナーに連載させていただく様になってから何年になりますか。常に背骨として来たのは何よりも動物たちのため、そして動物たちの環境のためという事でした。

このセンターに来る様になるまでは今ほど自然や動物たちに対する意識はありませんでした。自然は大好きでしたが建設の影には環境破壊が伴っている事やそれによって住みかを奪われた動物たちにまで思いを馳せる所まで至っていませんでした。なんて浅はかな考え無しの大馬鹿だったか、人間の勝手と都合で命を落としていった動物たちや壊されてしまった自然に対して今は心から謝り反省するしかないのですが、それだけではなく自分に出来る事は必ずやって行くという強い意思で日々の生活をこなしています。

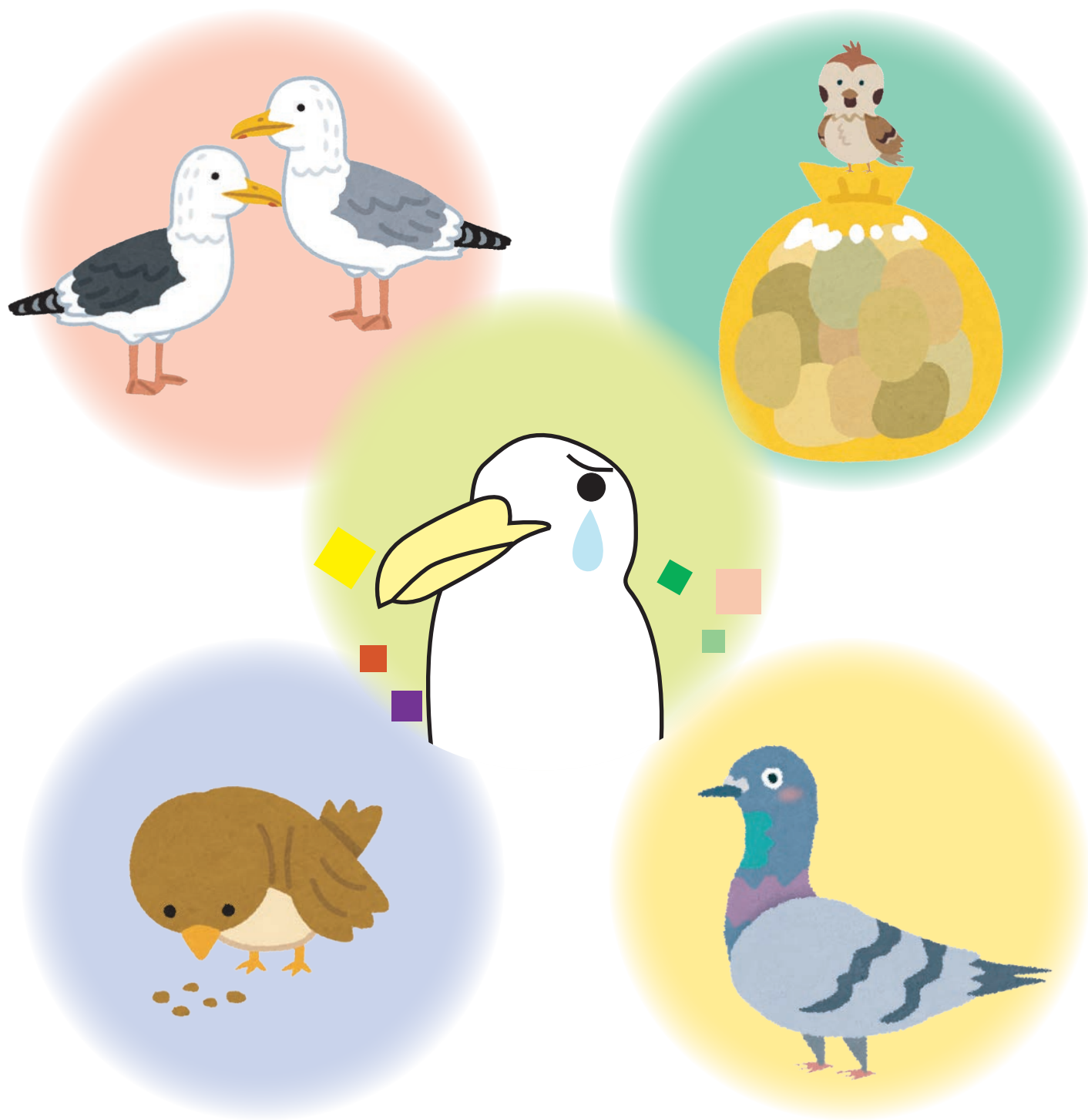
今年元号が令和になりましたがそんな事に関係無く、いや、平成以上に1人1人の小さな気付きや工夫や心がけによって動物に優しく、環境に優しく少しでも自然豊かな地球のためになるようにと願わずにはられません。

毎回稚拙な文章ですがその中から何かのきっかけになったりプラスの方向に意識が変化する方が増えて下さいますのなら何より嬉しい事です。これからも可能な限り経験や体験、勉強した事を元に多くの方々に共感して頂けるコラムを書き続けて行く所存です。



最後に、こちらのセンターやさらに日本の各地、そして世界のあちらこちらで動物たちと環境のために尽力し活躍されている方々に心より感謝と敬意を表しつつ、皆様の健康と御多幸を願い今年最終刊のランナーの私からのメッセージとさせていただきます。

今年も1年ありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎え下さいませ\ (^-^)/
令和になっても～On your side～ 動物たちと環境のために これからも一緒に



インフォメーション

探鳥会～冬の野鳥観察会(初心者向け探鳥会)～

◆小田原漁港周辺

▽日時:2020年1月18日(土) 9:00~12:00頃 ▽集合:早川駅改札口前 午前9:00

◆宮ヶ瀬早戸川林道

▽日時:2020年2月16日(日)

☆この時期にしか見られない水辺の冬鳥、山野の冬鳥を中心に観察します。

☆参加を希望される方は事務局までお申し込みください。

環境教育

◆秦野市立西小学校 エコスクール

▽日時:2020年1月21日(火) 10:40~12:15

▽対象:小学校3年生

☆小学校の子供たちに向けて、野生動物についての授業を行います。

あなたもこの環境教育に参加してみませんか?興味のある方は事務局までご連絡ください。

◆星座と光害(ひかりがい)を学ぶ

▽2020年2月22日(土) 9:30~12:00 (受付:9:00~)

▽場所:伊勢原市立子ども科学館 ▽参加費:500円(星座早見盤型プラネタリウム代)

☆星座早見盤型プラネタリウムの工作教室と光害の勉強会です。子どもから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は2020年1月24日、2月28日、3月27日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

年末年始の保全センターボランティアについて

◆自然環境保全センターの冬季休業

▽休業期間 12月28日(土)~1月4日(土)

☆この期間、センター職員は1人体制で午前中だけの出勤になり、動物たちの世話も手薄になりがちです。お忙しい時期とは思いますが、お時間のある方、是非お手伝いをお願いいたします。(*休業期間中はセンターへの電話/FAXも不通となりますので、ご注意ください)

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ

「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧ください♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

どなたでもご参加いただけます

★一般会員:年会費 2,000円

★学生会員:年会費 1,000円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています

★賛助会員:年会費 法人一口 5,000円/個人一口 3,000円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2019年12月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 平沼亜矢子 森紀美子 小林夏子 神崎さつき